第39回
特別展

井戸をのぞいてみれば

―考古学からみた井戸と人のかかわりとまつり―

四條畷市立歴史民俗資料館

第３９回特別展

井戸をのぞいてみれば

―考古学からみた井戸と人のかかわりとまつり―

田原城跡「殿様屋敷」の井戸　詳細はp.10

地下深くに穴を掘り地下水をくみ上げる井戸は、場所が特定される川や湧き水と違い、生活圏の近くに設置できることから、人々の生活に密接に関係してきました。そのためか、井戸には神様がいると昔から伝えられ、大切にされてきました。井戸にまつわる不思議な伝承や、まじないも伝えられています。四條畷市内では井戸に関わるまつりが現在でも行われています。

井戸の始まりから井戸にまつわる道具、まつり、人々との関係について、発掘調査でみつかった井戸をのぞいてみれば、一体何がみえてくるのでしょうか？

目次

1．のぞいてみえた、井戸のはじまり
近畿地方最古の井戸【讃良郡条里遺跡　四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
刳り貫き井戸【雁屋遺跡　四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
2．のぞいてみえた、井戸と釣瓶
三層構造？の井戸【大上遺跡　四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
井戸枠に使われた扉【讃良郡条里遺跡・四條畷小学校内遺跡　四條畷市】・・・・・・・・7
長い期間使われた井戸【中野遺跡　四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
應保二年と書かれた曲物【中野遺跡　四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
羽釜を使った井戸枠【讃良郡条里遺跡　四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
殿様屋敷の石組井戸【田原城跡　四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
土器の「釣瓶」１【禁野本町遺跡　枚方市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
土器の「釣瓶」２【讃良郡条里遺跡　寝屋川市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
3．のぞいてみえた、人々の生活
落っこちた！？井戸から曲物【高宮遺跡　寝屋川市・讃良郡条里遺跡　四條畷市】・・・14
井戸から発見！下駄【讃良郡条里遺跡　四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
井戸から発見！竹の編み物【大上遺跡　四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
井戸から発見！合子【中野遺跡　四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
井戸から発見！漆器【讃良郡条里遺跡　四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
井戸から発見！動物の骨【蔀屋北遺跡　四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
井戸から発見！木簡１【坪井遺跡　四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
井戸から発見！木簡２【忍ケ丘駅前遺跡　四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
4．のぞいてみえた、井戸のまつり
馬がみつかった井戸１【中野遺跡　四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
馬がみつかった井戸２【蔀屋北遺跡　四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
２枚の墨書土器【嶋上郡衙跡　高槻市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
姓の書かれた土器【岡山南遺跡　四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
井戸と魔除け〈櫛〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
井戸と魔除け〈桃〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
井戸終いのまつり“息抜き”【讃良郡条里遺跡・坪井遺跡　四條畷市】・・・・・・・・・28
5．今も続く井戸と人とのかかわり
清水の井戸【四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
照涌大井戸のおはなし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
照涌大井戸【四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
照涌大井戸水供養【四條畷市】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

イラスト：佐野喜美

会　　期：令和６年10月８日（火）～12月15日（日）
発　行　日：令和６（2024）年10月８日
編集・発行：四條畷市教育委員会・四條畷市立歴史民俗資料館
会　　場：四條畷市立歴史民俗資料館
（指定管理者：株式会社地域文化財研究所）
冊子作成：田中香里

お世話になった方々（敬称略）
大阪府教育委員会、（公財）大阪府文化財センター、高槻市埋蔵文化財調査センター、高槻市立しろあと歴史館、照涌大井戸保存会、寝屋川市、枚方市。
川元奈々、小浜成、小平梨紗、佐伯博光、塩山則之、竹原伸次、堂ノ本智子、西田敏秀、濱田幸司、福永信雄、藤井陽輔、守田悠、吉田綾子、渡辺晃宏。

1．のぞいてみえた、井戸のはじまり

弥生時代　近畿地方最古の井戸【讃良郡条里遺跡　四條畷市】

近畿最古の素掘りの井戸
（（公財）大阪府文化財センター提供）

讃良郡条里遺跡は四條畷市と寝屋川市にまたがる縄文時代から江戸時代まで続く遺跡です。この遺跡からは近畿地方最古段階の弥生土器がみつかっています。使用している土や土器の作り方、仕上げの方法は弥生時代のものですが、土器の形や文様の特徴から縄文土器の影響を推測する研究者もおり、弥生文化が各地に広まった最初の段階の土器だと考えられます。

平成15～17年（2003～2005）にかけて第二京阪道路の建設に伴う讃良郡条里遺跡の発掘調査が行われ、約2.0m×1.6m、深さ1.35mの楕円形の井戸がみつかりました。穴は深く掘るためか断面は逆台形をしています。穴の底は分厚い砂の層にまで達しており、その層を水源とする井戸と考えられます。

そして、この井戸からみつかった土器片もこの地域の弥生時代前期の特徴があり、この井戸も弥生時代前期の集落に伴うものです。

井戸からみつかった弥生時代前期の土器
（大阪府教育委員会蔵）

井戸の層は大きく３層に分かれ、中程から上が井戸の廃棄時に埋め戻されたもので、ここから土器片がごく少量みつかっています。こうした、井戸をいったん埋め戻す行為や、井戸廃棄後にゴミ穴として再利用されていないことから、この井戸は井戸廃棄のまつりが行われた可能性があります。

弥生時代　刳り貫き井戸【雁屋遺跡　四條畷市】

平成４年（1992）に行われた発掘調査で、一本の木を刳り貫いた井戸がみつかりました。大きさは長径62cm、短径58cm、深さ85cmです。刳り貫き井戸の外側には縦板が４枚添えられ、井戸は二重構造になっています。

刳り貫き井戸

井戸の中からは拳ほどの石や焼けた木、土器のほか、鹿の下顎骨や石鏃がみつかりました。このような刳り貫き井戸は特殊で、まつりに使われたとみられます。

井戸というツールを手に入れた弥生時代の人々は井戸を終える際に今まで水を与えてくれた井戸に対し、感謝の意を込め、まつりを行ったのかもしれません。「井戸には神様がいる。だから大切に、丁重に扱わなければならない」という考えは、昔からあるものですが、その精神性はこの弥生時代から続いているのかもしれません。

2．のぞいてみえた、井戸と釣瓶（つるべ）

井戸には様々な種類があります。井戸枠の有無や井戸の形状などで種類分けができます。井戸枠の無い素掘りの井戸や、木材や石、焼物を井戸枠に利用する井戸など、形も四角形や円形、六角形などがあり、それらが組み合わさっているものもあります。

平安時代　三層構造？の井戸【大上（おおがみ）遺跡　四條畷市】

平成９年（1997）に行われた大上遺跡の発掘調査で平安時代の井戸がみつかりました。

長さ約1.2m、幅約35cm、厚さ約５cmの板を４枚使い正方形の井戸枠を作り、その中に円柱状に穴を掘りそこへ直径約35cm高さ約25～35cmの曲物を３段に積み重ねてありました。

井戸枠の上には10～70cm大の花崗岩（かこうがん）の自然石が複数落ち込んでいました。

これらのことから、この井戸は円柱状の曲物の集水施設の上に、四角形の井戸枠があり、さらにその上に石組の井戸枠があるような三層構造であった可能性があります。

２種類の井戸枠

木製井戸枠の上部
大きな石が複数ある

古墳時代　井戸枠に使われた扉

【讃良郡条里遺跡・四條畷小学校内遺跡　四條畷市】

扉が使われた井戸（讃良郡条里遺跡）

井戸に使われた扉
（四條畷小学校内遺跡）

平成23～27年（2011～2015）に行われた“イオンモール四條畷”建設に伴う発掘調査で、建物の扉を再利用した古墳時代中期の木組みの井戸がみつかりました。井戸の大きさは最大径1.4mの楕円形で、深さ1.4mです。

井戸枠は12枚の木材を縦や横に組み合わせて“井”の形にした状態でみつかりました。木材には扉を開閉するための軸の部分や、扉を閉めるための閂を止める穴が開いており、扉の名残があります。この中で最も大きなものは縦約1.1m、横37cm、厚さ５～８cmでした。同じように平成６年度（1994～1995）に行われた四條畷小学校内遺跡の調査でも扉板が再利用された井戸がみつかっています。

水脈に達するまで深く井戸を掘ると大きく長い井戸枠が必要なので、使用しなくなったこれらの扉を再利用したのでしょう。もったいないの精神は今も昔も変わらないようです。

飛鳥時代～鎌倉時代　長い期間使われた井戸【中野（なかの）遺跡　四條畷市】

平成26年（2014）に行われた中野遺跡の発掘調査で、500年間もの長い間利用され続けた可能性のある井戸がみつかりました。

この井戸は四角形の井戸枠の中に円柱状の井戸枠が入っている二重構造をしています。穴の深さは約２ｍで四角形の方は一辺が95cm、円柱状の方は径が56cmありました。

四角形の井戸枠の角材の１つを年輪年代測定で測ってみると708年（飛鳥時代）に伐採された木が使われていました。円柱状の井戸枠を設置するために入れた土からは８世紀末～９世紀初頭(平安時代)の土器がみつかっています。また、井戸を埋めた土からは鎌倉時代の瓦がみつかりました。

このことから、1300年前（飛鳥時代）に四角形の井戸が作られ、何らかの理由で1200年前（平安時代）に円柱状の井戸が作り替えられ、800年ほど前（鎌倉時代）には井戸が埋められたと考えられます。

中野遺跡の井戸
市内の井戸の中でも最も重厚な造りをしている

平安時代　應保二年と書かれた曲物【中野遺跡　四條畷市】

平成３～４年（1991～1992）にかけて行われた四條畷市役所の東別館建設に伴う発掘調査で木組井戸がみつかりました。その底で集水施設として利用されていた曲物に年号が書かれていました。

「如月廿日　應保二年」と書かれた曲物が作られたのは1162年２月20日、平安時代末のことです。

曲物がみつかった井戸

井戸の底からみつかった應保二年銘曲物
（市指定有形文化財）
直径50.5cm

赤外線撮影で
はっきりみえた年号
（奈良文化財研究所撮影）

平安時代～鎌倉時代 羽釜を使った井戸枠

【讃良郡条里遺跡　四條畷市】

“イオンモール四條畷”建設に伴う発掘調査で、井戸枠に瓦質の羽釜を利用した平安時代から鎌倉時代の井戸がみつかりました。

井戸枠に利用された羽釜は直径約46cmで、底の部分が割られており、曲物を３段に重ねた上にこの羽釜を上下逆さまにして置いてありました。

こうした土器を利用する井戸は、日本では弥生時代から確認することができます。

瓦質の羽釜が使われた井戸

瓦質の羽釜
上が底の部分

室町時代 殿様屋敷の石組井戸【田原城跡　四條畷市】

昭和57年（1982）、地元で“殿様屋敷”と呼ばれている台地の発掘調査が行われ、掘立柱建物や石組の井戸がみつかりました。井戸は近くに流れる天野川の水位に合わせて7.2mも掘られていました。

殿様屋敷の石組井戸
のぞくと吸い込まれそうなほど深い

この殿様屋敷の殿様とは、井戸の北東にある田原城主の田原氏を指していると考えられます。天正２年（1574）に田原城主がキリスト教徒となり、翌年には他の河内キリシタンと共に“田原レイマン”が織田信長に挨拶に赴いていることがわかっています。レイマンは天正９年（1581）に死去し、その墓碑（大阪府指定有形文化財）が菩提寺である千光寺跡でみつかっています。

奈良時代 土器の「釣瓶」1【禁野本町遺跡　枚方市】

釣瓶は井戸から水を汲み上げるための道具です。中世以前には土器などの焼き物、曲物などが多く利用され、それ以降には桶のようなものが主流でした。

遺跡からみつかる井戸の中からは釣瓶と考えられるものが出てくることがありますが、土器の場合釣瓶として利用されていたのか投棄されたものなのかがわからないことがほとんどです。

平成16年度（2004）に行われた禁野本町遺跡の発掘調査で、井戸から釣瓶と考えられる土器が６点みつかりました。

そのうちの１点は紐が付いた状態で、釣瓶として使用された確実な例です。

また、ほかの土器も紐を通すための穴が付けられているものもあり、釣瓶の可能性が高いようです。

釣瓶がみつかった井戸
（枚方市提供）

紐のついた釣瓶
（枚方市提供）

井戸からみつかった釣瓶
（枚方市提供）

古墳時代 土器の「釣瓶」2【讃良郡条里遺跡　寝屋川市】

平成16～19年（2004～2007）に行われた讃良郡条里遺跡の発掘調査で、古墳時代の井戸が発見されました。そこからは頸部に紐が付着した状態の甕がみつかりました。この紐が釣瓶としてこの土器が利用されていたという証拠です。

紐のついた土器がみつかった土の層よりもさらに下からも多くの土器がみつかっています。この層は井戸が利用されていた時期に形成された層であることから、これらも釣瓶として使われていた可能性があります。

井戸の最下層からみつかった土器
（（公財）大阪府文化財センター提供）

紐が付着した甕
（大阪府教育委員会蔵）
高さ約15cm

紐が付着した甕
赤矢印の部分に紐が付着している
（（公財）大阪府文化財センター提供）

“イオンモール四條畷”建設に伴う発掘調査でも、紐が付着した土器が古墳時代の井戸からみつかりました。

付着していた紐は状態が良く、植物の繊維２本を撚り、それを３本併せて編み込まれたものだということがわかっています。

紐が付着した土器がみつかった素掘りの井戸
（寝屋川市提供）

紐が付着した甕
（寝屋川市蔵）
高さ約15cm

紐が付着した甕
赤矢印の部分に紐が付着している
（寝屋川市提供）

3．のぞいてみえた、人々の生活

井戸からみつかる様々なものから、井戸が使われていた、もしくは井戸を埋めた時代の人たちがどんなものを使って生活していたのかがみえてきます。

平安時代　落っこちた！？井戸から曲物（まげもの）

【高宮（たかみや）遺跡　寝屋川市・讃良郡条里（さらぐんじょうり）遺跡　四條畷市】

曲物は様々な用途で井戸に利用されていました。前章で紹介した井戸枠や釣瓶が挙げられます。

井戸枠に利用された曲物は底が抜けており、釣瓶に利用されたものは紐を通すための穴が空いています。しかし、この高宮遺跡・讃良郡条里遺跡からみつかっている曲物には底があり、穴が空いていません。

これらは現在のタライや洗面器の様に水を入れる用途で使用されていました。井戸から汲みだした水を家に持ち帰るのに、これに入れて運んだのでしょう。

曲物の出土状況
（寝屋川市提供）

文字が書かれた曲物　直径16cm
（寝屋川市指定有形文化財　寝屋川市提供）

寝屋川市にある高宮遺跡の曲物は側面に墨書で「保延六年□月十一日侍近桶也」（□は解読不明）と書かれており、これが利用されていたのが1140年ごろの平安時代末期であることがわかる貴重な例です。

両遺跡からみつかった曲物は、水を入れるために井戸枠に置き、誤って落としてしまったのかもしれません。

讃良郡条里遺跡から
みつかった曲物１
直径17.6cm

讃良郡条里遺跡から
みつかった曲物２
底があることがよくわかる

曲物ってどれくらいの水が入るの？

計算をしてみると、高宮遺跡から発見された曲物には水が４Ｌほど入るようです。

現在１日に一人が使う水の量は平均 221L だそうで（東京都水道局しらべ）もしこの曲物で水を汲むとすれば、なんと約 55 回！

1965 年ごろと比べても現在の水の使用量は倍近く増えているため、平安時代と比べると水の使用量は格段に増えていると思われますが、井戸を含む川などの水のある場所へ行く、水を汲むといった生活用水の確保に掛かる時間は大変多かったことでしょう。

鎌倉時代～室町時代　井戸から発見！下駄
【讃良郡条里遺跡　四條畷市】

“イオンモール四條畷”建設に伴う讃良郡条里遺跡の調査で、鎌倉時代から室町時代にかけて使用されていた井戸から下駄が一足みつかりました。歯は差し込み式で、鼻緒を固定する穴のうち、指ではさむ部分以外の２カ所には別の木材が挿入されていました。これは鼻緒を取り付けるために使用されたと考えられます。

下駄のつま先側には焦げ跡があるため、使えなくなって捨ててしまったのかもしれません。

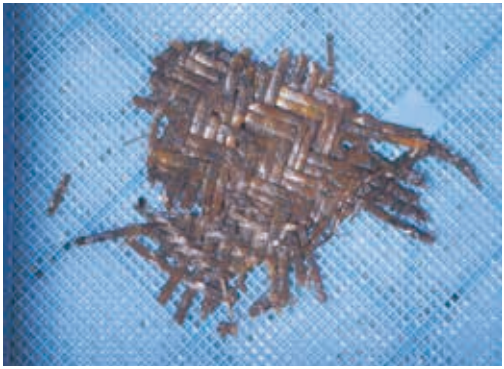
下駄
黒く変色している部分が焦げ跡

下駄　裏面
長さ約20cm

平安時代　井戸から発見！竹の編み物【大上遺跡　四條畷市】

平成９年（1997）に行われた国道163号の拡幅工事に伴う調査で、平安時代の井戸（p.6）から土師器の碗が２つみつかりました。その底部分に竹の編み物が付着していました。

この編み物は網代編みという網目に隙間ができない丈夫な方法で編まれています。



竹の編み物
取り上げ直後で編み方がよくわかる

平安時代・鎌倉時代 井戸から発見！合子【中野遺跡　四條畷市】

合子とは蓋つきの入れ物のことです。

昭和52～53年（1977～1978）、平成３～４年（1991～1992）に中野遺跡で行われたそれぞれの調査で輸入された磁器の合子がみつかりました。

どちらも蓋または身のみがみつかっています。

昭和52～53年の調査で
みつかった合子の身
直径約7cm

平成３～４年の調査(p.９)で
みつかった合子の蓋
直径4.2cm

鎌倉時代・室町時代 井戸から発見！漆器【讃良郡条里遺跡　四條畷市】

漆塗りの皿
直径約13cm

“イオンモール四條畷”建設に伴う讃良郡条里遺跡の調査で、多くの漆器が井戸からみつかりました。

黒漆と赤漆が塗られ、外面には文様、底には漆書きでなにか文字のようなものが書かれています。

漆塗りの椀
緑の円の中に文様がみえる
直径約16cm

漆塗りの椀
上の皿と同じ井戸から発見
緑の円の中に文字がみえる
直径約15.6cm

古墳時代　井戸から発見！動物の骨【蔀屋北遺跡　四條畷市】

平成14～15年（2002～2003）に行われた“なわて水みらいセンター”建設に伴う調査で、古墳時代の馬飼集団の集落がみつかりました。この集落内にある船底材を再利用した井戸からキジやタイ、イノシシ、イタチなどの骨が発見されました。

＜キジ＞

日本の国鳥でもあるキジは、羽は装飾品や矢羽根として、肉は美味であることから食料として利用されてきました。古墳時代の冑には頭頂部に三尾鉄と呼ばれる羽の装飾を施す部品にキジの羽に似た繊維が残っていた例もあります。

蔀屋北遺跡では井戸の他にカマドからも骨（尺骨）がみつかっています。ここではキジの手羽先を食べていたのかもしれません。

井戸から見つかったキジ
ツバサの骨（尺骨・橈骨）
（大阪府教育委員会蔵）

＜タイ＞

マダイの背骨がみつかりました。食べた後のゴミを捨てたのでしょうか？

蔀屋北遺跡からみつかっている海水魚はスズキやボラの仲間、ハモの仲間など多くの種類がありますが、その中でもマダイが多くを占めます。

淡水化した河内湖畔の蔀屋北遺跡からは漁具がほとんど発見されていないため、海の近くの集落から海水魚を入手していた可能性があります。

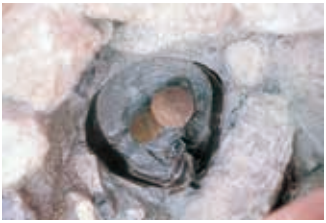
マダイの背骨
（大阪府教育委員会蔵）

鎌倉時代～室町時代　井戸から発見！木簡１【坪井遺跡　四條畷市】

木簡とは紙が貴重品だった時代に文字を書くために使われていた木のことです。

昭和51年（1976）に行われた坪井遺跡の発掘調査で鎌倉時代から室町時代の石組井戸から木簡がみつかりました。両面とも「こむき三斗六升」、一面のみ木目に直交するように「一□□」（□は不明の文字・二文字目は「斗」や「丁」の可能性）と書かれています。「こむき」は小麦のことで、三斗六升はその量です。

「こむき三斗六升」
と書かれた木簡
長さ19.1cm



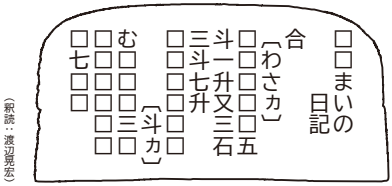
木簡が
みつかった井戸

鎌倉時代　井戸から発見！木簡２【忍ケ丘駅前遺跡　四條畷市】

昭和53年（1978）に行われた国鉄片町線複線化工事に伴う調査で井戸の中から３点の木簡がみつかりました。これらは折敷（食べ物を載せる薄い角盆）を分割して利用した帳簿でした。

ほとんどは解読できませんでしたが、一部は読める状態のものがあり、その内容から、この木簡は穀物の出納に関わるもののようです。また、「寛元二年」という墨書があり、1244年に書かれたものとわかります。この遺跡の年代とも合致します。

忍ケ丘駅前遺跡の木簡
幅15.7cm



4．のぞいてみえた、井戸のまつり

古墳時代 馬がみつかった井戸１【中野遺跡　四條畷市】

昭和62年（1987）国道163号拡幅工事に伴う発掘調査で古墳時代後期の井戸がみつかりました。井戸は直径1.3m、深さ1.2mの素掘りの井戸です。

その中から馬の上下の顎の骨が板に乗せられた状態で発見されました。また、その骨の上には花崗岩が置かれ、それをおおっている土の層からは土師器の甕や壺、高坏の脚部分がみつかっています。

馬は推定３～４歳で、井戸を廃棄する際に馬の首を井戸に埋めたと考えられます。

馬を犠牲にしたまつりは同遺跡の大溝からもみつかっており、そこでは焼けた木の上から５歳ほどの馬の下顎骨が発見されました。

井戸からみつかった馬（中野遺跡）

古墳時代 馬がみつかった井戸２【蔀屋北遺跡　四條畷市】

平成13～15年（2001～2003）に“寝屋川流域下水道事業なわて水みらいセンター”建設に伴って蔀屋北遺跡の発掘調査が行われました。その中で船材が再利用された井戸がみつかりました。この井戸の中から30点以上の土器と共に、馬や犬の骨がみつかりました。馬は頭の一部と指の骨が、犬は首や腰の骨です。犬の首の骨は鋭い刃物で切られており、まつりなどに利用されたと考えられます。

古墳時代以前には日本に馬はおらず、大陸から船で海を渡り、連れてこられました。四條畷市は古墳時代、馬の生産を行う集落でした。

井戸からみつかった馬
（大阪府教育委員会蔵）

井戸からみつかった犬
（大阪府教育委員会蔵）

馬と水のまつり

馬は世界的にみても古来より水と関係の深い動物であると考えられてきました。日本でも、雨乞いや日乞いのために馬を奉納する風習がありました。

平安時代に編さんされた歴史書の『続日本紀』には「長雨のため白馬を奉納した」、「黒馬を奉納し雨乞いをした」と書かれています。

また、平安時代の『延喜式』にも同様の記述があります。

『続日本紀』
宝亀８年（777）「奉白馬於丹生川上神　霖雨也」
延暦７年（788）「奉黒馬於丹生川上神　祈雨也」

井戸から馬の骨がみつかっていることから、馬と水の関わりがあったと考えられます。

馬は運搬や耕作などの労働力として貴重な動物でした。井戸のまつりにはそれを犠牲にするほど、強い願いや祈りの気持ちが込められていたことがうかがえます。

平安時代　２枚の墨書土器【嶋上郡衙跡　高槻市】

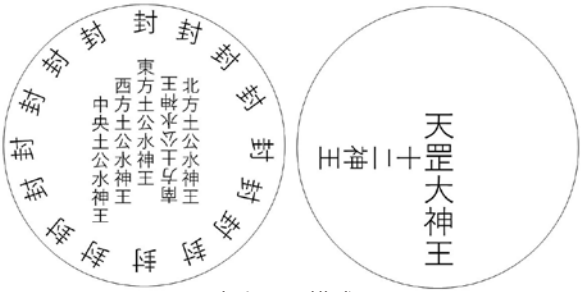
昭和55年度（1980～1981）の調査で石組の井戸がみつかりました。井戸の大きさは約1.5m×1.3mの四角形、深さは3.4mです。みつかった土器からこの井戸は平安時代中期のものであることがわかりました。

墨書土器がみつかった井戸
（高槻市立埋蔵文化財調査センター提供）

井戸の下層からは黒色土器、灯明皿などの土器や、曲物片、櫛片、斎串などの木製品がみつかっています。そして、井戸の底からみつかった１組の土師器の皿には墨書があり、井戸に関するまつりで使用されたことがわかっています。

嶋上郡衙跡調査の様子
（高槻市立埋蔵文化財調査センター提供）

墨書土器　直径約14cm
（高槻市立埋蔵文化財調査センター提供）



墨書土器　模式図

墨書土器は２枚が口を合わせた状態でみつかりました。いずれも土師器の皿の内側に文字が書かれています。

１つは右から縦に「北方土公水神王」「南方土公水神王」「東方土公水神王」「西方土公水神王」「中央土公水神王」と書かれていますが、「南方土公水神王」のみ上下が反転しています。そして、周囲を口縁に沿うように「封」の字が12字巡っています。

もう１つは中央に「天罡（てんこう）大神王」、その左側に垂直に「十二神王」と書かれています。どちらも水が涸（か）れないように祈願する神様の名前が書かれ、封の字はその中の神様を守護する意味があります。

この墨書土器は、口を合わせ、紐で結わえた状態で井戸を掘った際に底に安置され、水が涸れないように祈願するまつりで用いられたと考えられます。

藤原道長と不幸のまじない

『御堂関白の御犬晴明等奇特の事』（宇治拾遺物語より）

むかしむかし、御堂関白殿（藤原道長）が法成寺（京都にかつてあったお寺）を建立され、それから毎日のようにお堂へ通っておられました。その頃、関白殿はいつも離れず御供をしていた犬をたいそう可愛がっておられました。

ある日、関白殿がお堂の門に入ろうとすると、犬がわんわんとひどく吠え、道をふさぎ中へ入れまいとしました。車から降りた関白殿は気にもせず中へ入ろうとしましたが、犬は服の裾を噛みそれを引き止めました。なにか訳があるのだろうとお考えになった関白殿は陰陽師の安倍晴明を呼び、犬が引き留めた理由を聞きました。晴明は「あなたを呪うための物が地面に埋められているのです。それを踏み越えてしまっていたなら、不吉なことが起こっていたことでしょう。犬には不思議な力があるので、それをお伝えしていたのです」といいました。これを聞いた関白殿は晴明に場所を聞き、そこを掘らせてみせると、なんと二枚の土器を合わせたものがみつかりました。土器は黄色いヒモで十字にくくられ、中にはなにも入っておらず、辰砂（赤色の塗料）で線が土器の底に書かれているだけでした。

「この呪いの方法は、晴明の他には誰もしりません。もしかすると道摩法師が行ったのかもしれません。問いただしてみましょう」と、晴明は懐から紙を取り出し鳥の形にし、呪文を唱え空へ投げると白鷺になって南の方へ飛んでいきました。鳥の行く先を探ってみると、六条坊門万里小路あたりの古びた家におりていきました。そこにいた道摩法師を問いただしてみると、「堀河左大臣顕光公に頼まれてこのようなことをいたしました」と白状し、道摩法師は播磨（今の兵庫県）に追放されました。

顕光公は死後怨霊になって、関白殿を祟り悪霊左府と呼ばれたそうです。そして関白殿を助けた犬はより一層大切にかわいがられました。

平安時代 姓の書かれた土器【岡山南（おかやまみなみ）遺跡　四條畷市】

岡山南遺跡から平安時代の住居に伴う２基の井戸の中から姓の書かれた土器がみつかっています。井戸はそれぞれ９世紀ごろと11世紀ごろに利用されていた方形板枠井戸です。

昭和56年（1981）の調査で発見された９世紀の井戸の土器には「田内急」と書かれていました。田内はおそらく人の姓で、この井戸は田内さん専用の井戸だったのでしょうか。「急」は緊急に何かをまつらなければいけなかったのか、あるいはまつりの呪文の１つである“急急如律令”を意味するのかもしれません。

昭和61年（1986）の調査で発見された11世紀の井戸からは「高田宅」と書かれた土器２点と「福万宅」と書かれた土器が１点みつかりました。こちらも高田と福万は人の姓で、宅は家という意味でしょう。高田さんと福万さんが共同で使っていた井戸で行ったまつりに使用された土器の可能性があります。

「田内急」と書かれた
黒色土器の碗
直径18.4cm

「高田宅」と書かれた黒色土器の碗
直径約15cm

「福万宅」と書かれた黒色土器の碗
直径約15cm

●井戸と魔除け

井戸からは桃や櫛といった古くから不思議な力があると考えられているものがみつかることがあります。

桃や櫛というと日本神話にある黄泉の国のお話を思い出す方も多いかもしれません。お話の中ではどちらもあの世の使いを留めるために使われていました。こうした悪いものを退けるための力があると信じられており、桃であれば不老長寿、櫛であれば変化（へんげ）や依（よ）り代（しろ）といった意味合いもあると考えられています。

鎌倉時代 ＜櫛＞【城（じょう）遺跡　四條畷市】

平成15～16年（2003～2004）にかけて城遺跡で行われた国道163号の発掘調査で河川がみつかりました。その河川の右岸に井戸が設けられていました。井戸は鎌倉時代のもので、その中から柘植櫛（つげぐし）がみつかっています。

櫛がみつかった井戸と河川

井戸からみつかった櫛
幅約11cm

古墳時代 ＜桃＞【奈良井遺跡　四條畷市】

奈良井遺跡で行われた“四條畷市市民総合センター”の建設に伴う発掘調査でみつかった古墳時代後期の井戸からは小型の桃の種が多量に入った土師器の甕がみつかりました。これらの桃は馬にまつわる井戸のまつりに使用されたと考えられます。

井戸から60mほど離れた場所にある溝の中からは、まつりに利用された馬の骨が７体分みつかっています。

馬のまつりに使用された井戸

甕に入っていた桃の種

桃が入っていた甕
高さ約20cm

鎌倉時代～室町時代 井戸終いのまつり“息抜き”

【讃良郡条里遺跡・坪井遺跡　四條畷市】

息抜きは井戸を土で埋める際に井戸の神様が息をできるように節を抜いた竹などをさして埋める、井戸を終える際のまつりです。

四條畷市にある讃良郡条里遺跡と坪井遺跡から息抜きのまつりに使用したと考えられる竹筒がみつかりました。この息抜きのまつりは古くは奈良時代から行われているようで、丸瓦を筒のように縦に埋めたものや縦板を利用したものなど様々なものが使われています。

現代でもこのまつりは行われており、竹の他に塩化ビニールのパイプが使われているようです。

讃良郡条里遺跡の井戸
赤矢印が竹

坪井遺跡の井戸
赤矢印が竹

井戸とめばちこ*のおまじない

なわて君には奈良に住むばあばと兵庫に住むばあばがいます。

なわて君「おばあちゃん、めばちこできてもた！」

ばあばたち「ばあばがええおまじない教えたろ」

奈良のばあば「めばちこ治すんやったら味噌漉しを井戸に半分だけ突き出して、井戸を覗くマネをするんやで」

兵庫のばあば「ちゃうちゃう、めばちこができたら井戸を覗いて半分だけ顔をみせて　めばちこ治してくれたら全部みせたる　って言うんや」

似ているけど地域によってちょっと違う井戸とめばちこのおまじない。
井戸には不思議な力があるのかな？

＊ものもらいの方言
参考　小学館『故事・俗信　ことわざ大辞典』1982

現代 清水（しみず）の井戸【四條畷市】

清水の井戸
（令和６年８月２２日撮影）

清水の井戸は岡山二丁目にあり、岡山地域の南山下（みなみさげ）あたりの共同井戸でした。この井戸は弘法大師（こうぼうだいし）が杖を突き、涌（わ）き出させたと伝えられ、井戸の西側30mあたりには大師堂が今も安置されています。

毎年８月には井戸浚（ざら）えをし、塩を供し、水神をまつって大事に利用していたそうですが、地域に水道がひかれたのと時をほぼ同じくして、その役目を終えたかのように井戸は涸（か）れました。

現在では井戸跡を清め、自然石を立てて水神としておまつりされています。

照涌大井戸（てるわきおおいど）のおはなし

あるとき、旅のお坊様が田原の村を通りかかりました。村人は疲れていたお坊様にお水を差し上げました。お坊様はそのお礼に「ここを掘ればきれいな水が涌くでしょう」と伝えました。このお坊様は、かの有名な弘法大師だったのです。村人はその教えに従い、その場所へ井戸を作りました。

それから千年の時が経ちましたが、どれだけ日照りが続いてもきれいな水が湧き続け、「照れば照るほどよく涌く井戸」ということで「照涌大井戸」と名付けられ、この井戸の周辺は照涌という地名となっています。

（参考：照涌大井戸説明板　照涌大井戸保存会）

現代 照涌大井戸【四條畷市】

照涌大井戸は、下田原地域の30軒ほどの共同井戸です。石組の井戸で口は縦1.25m、横1.85m、水深90cmで、脇には石仏が立っています。ほとんどの家にはその家専用の井戸がありましたが、照涌大井戸は涸れることがなかったので生活用水にも利用されました。

照涌大井戸（平成16年８月25日撮影）

お客さんが来たら冷たい井戸水を汲み、砂糖を入れて砂糖水を出したり、農業でこの井戸の水に種もみをつけると、よく発芽したそうです。

照涌大井戸水供養
（令和６年８月25日撮影）

現代 照涌大井戸水供養【四條畷市】

昭和62年（1987）に覆屋の修復が完了し、照涌大井戸保存会が結成されました。毎年８月の末頃には照涌大井戸水供養を行い、井戸へ感謝を伝えています。

現代人にとって縁遠くなってきている井戸ですが、貴重な水源として大切にされてきた井戸と人との関係は、この四條畷の地で現在も続いています。

2024.10.8 — 12.15